

公民館だより

60.12
由良地区
公民館

知恵を出し合って地域の発展を

館長 小松 忠 衛

十月二十六日に宮津商工会議所主催の講演会「演題、地域振興・地方都市活性化への道」があり、その内容を取り入れながら皆様がともに考えてみたいと思います。
現在、特に地方の経済が厳しい時代の中で、市や府、地元議員さんのご努力により、当由良地区発展のため、各種の施策が実現し、国民宿舎・農林漁業体験学習館・由良の里センター・展望台・離岸堤・圃場整備等々が整備されていきますが、中にはどうかと言うと、行政指導型の事業であり、地区民の知恵・要望が出されていらないと思われ、例えは体験学習館、これの利用者が少いようである。折角の立派な施設が勿体ない。
由良体験学習館という名称も良くないと思うし、宣伝ももう一つ行届いていないのかもしれないが、体験する場が確保されていない。折角施設を建ててやったのだから、後は地元でという考の方もあるが、何と云っても、事前に地元民の知恵を出し合って活用されるよう、準備のなかり、受け入れ態勢があれば、も

っと活用されるのではないだろうか。失礼な言い方とは思いますが、由良地区民は勿論私も含め、地域の問題について無関心すぎると思う。

現在由良地区は、青年層がかなり地元に着して心強く思っているが、宮津線廃止承認秒読みの状態の中で、地域の雇用が減少し、若者の都市圏への流出、人口減少と過疎化がますます進み、高齢者が殖之へ全人口に対する六十五歳以上の高齢者の割合は、府内で上から二番目のこと、地域から取り残されてしまいう心配がある。

由良地区が、宮津市内の栗田・上宮津・府中等地域から落ち零れないよう競争していくためには、自分のふる里は守り育てていく心構えが大切ではないだろうか。そのため、地区には、自分達のふる里を振興したり、再検討して、それを活用できるように知恵を出し合うことが大切だと思ふ。

由良には、丹後富士といわれる秀麗由良岳あり、鯉の帰る由良川あり、男性的な日本海あり、空想もある。風光明媚なふる里、由良を大切にして生かすことを考之直してみることに大切だと思ふ。

現在、日本国中が過疎対策として、一村一品運動に取り組み、何と云っても、村おこし運動に懸命である。特に青年層の活躍を期待したい。

最後に、講演の中から素材活用の一例を挙げてみます。

山形県の出羽三山の一つ、月山の麓の過疎の町西川町では、商工会議所が中心になってあり余る月山の水の活用を考之、水を瓶詰にして自然水「月山」の商品で、東京に売り出したところ、神戸の「六甲水」について二番目によく売れる水となり、初めは地元の水道経費の節減ができればと考之いたが、今では町の財政を潤すまでになり、活力源になっていくとのことだ。

ご意見があれば公民館までお願いいたします。

平間主事表彰に輝く

去る七月二十四日、京都府公民館大会において、京都府公民館連絡協議会長より表彰されました。
これは、平間主事さんが昭和五十二年より現在まで永年により、由良地区公民館の主事として、よく館長を補佐し、地域住民に活力と潤いを与えるため、盆踊り、史跡めぐり、由良岳親子登山、文化祭など全住民が参加できる活動を実施し、さらに各年代層の多様なニーズに応じたサークルの育成等々、公民館を住民のための生涯活動の場として位置付けられた功績によるものです。おめでとうございまして。今後ともよろしくお願ひします。

報告 (一)

主事 平間 克己

一自治学級 七月二十七日 午後七時三十分
会場 由良の里センター
参加人員 各種団体より総員二十六名
助言者 中西源兵衛氏 中西嘉重郎氏
藤本 秀雄氏 四方寿朗氏
司 会 小松公民館長 平間主事
主 旨 由良地区を明るく、住みよい地域づくりを目指す

(一) 観光祭について

由良の発展は、観光を抜きにしては考之られない

観光祭をやる事により、夏のシーズンを発展させる事になるので、実行委員を組織し、由良全体として取り組む必要あり。もつと海水浴客と住民の喜ぶ観光祭にするべきである

(二) 空きごみ対策

特に夏季の海水浴シーズンのごみ処理が大変である
。決り近くのごみ籠は、いつもオーパーポールして道端にこぼれ、臭気ぶんぶん、折角ごみ捨てに来た人も、その附近に捨てる
。海水浴客にも自覚を促し、協力してもらうため、放送又は立看板を設置して、PRすべきである。

二、挨拶運動について

○由良小学校では、立看板を道路に立て、地域の人も協力してもらおうようにしている。校内でも挨拶するよう指導している。
○小学生に挨拶が出来て、中高生に出来ないのは、幼児期から家庭の躾が不足しているからである。
○子供からの挨拶を待つより、大人から挨拶を仕掛ける事が肝要である。
○挨拶は他人に対する思いやりでなければならぬ。
○一般からも、挨拶標語を募集する事により意識が高揚する。
○小学校、中学校の廃品回収でも「ありがとう」を言えない子供がいる。「ありがとう」と家庭で親が教えてやるべきではないでしようか

次回開催予定

とき 昭和六十一年一月十八日(土)
テーマ 宮津市政と村おこし運動

二、夏季四部対抗球技大会

八月十四日
今年には特に炎暑が続いたため、時々大会役員(体育部員)が、水を運び打ち水をしながらグラウンドコンディションの調整を計った。大会は、猛暑の中熱戦又熱戦であった。

四、運動会

九月八日(日)
連日の酷暑の中での運動会は、体調に影響し事故が起らねばと心配したが、前日のグラウンド整備中、珍らしく夕立となり、明日はどうかと思案していたが、当日になると申し合わせたように、絶好の運動会日和になった。
特に今回の運動会では、二種目値えた。

(1)消防操法訓練

さすがが宮津市の操法大会で準優勝に輝いた由良分団、真剣で節度ある操法は、会場はシンと静まり、因唾を飲む感かした。

(2)綱引き

この種目は、若しく体調を消耗するので敬遠気味であったが、今日種目に入れた。又、この種目は、最近ブームに乗って流行になり、市教委からも、近日中に講習をするに云っている。

成績発表表

総合優勝 第三部 前回優勝
四部対抗リレー 第三部 前回優勝
なんと云って、地区の運動会は和やかで楽しい。皆さんが一生懸命走られ、事故もなく終ったことは、何よりも喜ばしいことです。また、二年先の運動会には、元氣よく走りましょう。

野球、ソフト共に一回戦は僅少差で勝負がきまっていたが、二回戦は双方共に炎暑が堪たか、大差できまっていた。

成績発表表

一般男子ソフトボール

優勝 第四部
準優勝 第二部

青年男子軟式野球

優勝 第一部
準優勝 第四部

反省点(主審、塁審の交替制について) 昼食時間がないため、或る主審は昼食が午後三時になった。この点改正すべきと思う。

三、盆踊り

八月二十三日 午後八時
例年低調なので、今年こそは多くの人達に踊って戴きたく思い、自治会、婦人会、老友会に協力をお願いし、更に分館長に放送をお願いする等、PRに努めた。
午後八時の定刻には、見る見る中に踊りの輪が二週りになり、近年稀に見る盛況となりました。又、粗品として豆絞りの手拭百本は、瞬く間に踊りの人に手渡し終った。踊りながら受け取られた手拭は、襟足に副って掛けられ、その踊り姿が粋で艶かであった。長年の願いが叶えられた思いである。来年も盛況である事を祈る。

五、史蹟めぐり

九月二十五日(水)

目的地 兵庫県出石
マイクロボスの都合により、水曜日となった。日曜日でないため、希望者が減った。総員十七名であった。

中西俊夫、小谷一郎両先生の綿密な資料、それに小谷先生の懇切な説明、皆さん満足された。出石は三方石の城下町であり、どんな小さな寺にも、由緒あり、格式がある。麦藁屋根の足軽家敷にも、古色床一さが惚ばれる。出石町全体が武家政治を象徴する。最たる記念館で、印象的であった。

- 今後の史蹟めぐりについて
- (1)市教委からのマイクロボス利用は、今日で終りとなった。
- (2)民営バスを利用することになる。
- (3)個人負担が高額となる。
- (4)名案があれば教えて欲しい。

報告(二)

一、第七回婦人部結成女子バレーボール大会 八月十四日

二、宮津市少年野球・ソフトボール大会 八月二十三日

三、第九回宮津市消防団ソフトボール大会 七月六日

優勝(宮津市長杯) 由良女子中学チーム
優勝 由良分団

寄附

- 一金壹万円也 為亡夫供養 中西明美殿
- 一金五千円 運動会 宮津市農協由良支所
- 一金五千円 運動会 舞鶴信用金庫由良支店

健康シリーズ

やぶにらみの記 四才 寿朗

② 由良地区の死因統計

我々の命を奪う病気を、由良と全国と比較してみよう。

- 一、男の癌が多く、女は少ない。男女を平均すると全国なみである。
- 二、脳血管障害と心臓病が約二分の一と少ない。
- 三、老衰が目立って多い。

死亡者の平均年齢（平均寿命ではない）は、男六十九歳、女七十五歳となる。死亡率人口一〇〇〇人について由良は九七人、全国は六二人（昭和五十九年）である。

気になる男性の癌十六人の内訳は、胃癌五、肝癌三、肺癌、腸癌各二、前立腺、舌、陰茎、白血病各一である。

これを見ての皆さんのご感想をお聞きしたい。

由良地区死因統計(昭和55年~59年)

原因	男		女		由良総計		全国
	人数	%	人数	%	人数	%	(昭和55年)
癌	16	38.1	4	9.5	20	23.8	24.6
脳血管障害	4	9.5	5	11.9	9	10.7	18.9
心臓	4	9.5	4	9.5	8	9.5	18.9
肺炎	1	2.4	3	7.1	4	4.8	6.1
老衰	8	19.0	17	40.5	25	29.8	3.9
事故	-	-	1	2.4	1	1.2	3.9
自殺	2	4.8	-	-	2	2.4	3.3
肝疾	1	2.4	1	2.4	2	2.4	2.3
その他	6	14.3	7	16.7	13	15.5	18.1
計	42		42		84		

史蹟めぐりへ出石

中西夏江

但馬の小京都”ともいわれる出石は三万石の城下町。バスを降りるとすぐ目につくのは藩制時代に建てられた辰鼓櫓である。辰の時刻（午前八時）に藩士の登城を告げる太鼓を鳴らした見張り台で、現在は時計台として出石町の象徴となつてゐる。美しい。

ゆるやかな坂道を上ると入佐山の麓に宗鏡

寺がある。荒廃後、復興した（一六一六年）のは沢庵和尚で通稱「沢庵寺」。私達が食膳に親しむ「沢庵漬」は、ここで工夫された由。玄關破風の「菱の紋」は鮮やかで、和尚作庭の名園の池水は澄み、草庵「投淵軒」は閑寂な趣がこめられている。私達は「夢見の鐘」を思い思いについて寺を辞したが、とりわけ印象深かったのは、和尚の小さな墓であった。折から吹く秋一陣の風に、和尚鎮魂の賦が流れてくるようなおもひにかられるのだ。た。

本高寺には、仙石左京の藩制改革に批判的であった河野瀬兵衛忠碑が一さわ大きいのが異様だった。一幕府が仙石左京を「御家騒動」として断罪したのは、瀬兵衛の作った上書による。山門を出て古い酒舎に驚く。どっしりと重い土壁は朽ちかけているが、今の地酒を醸造しているときく。見事な存在である。

町立資料館は明治の豪商宅。よく整備されている。多くの記録物や文化財に目を見張り、二階にも流れてくる館内放送を聞きながら、思いは藩制時代へと誘われてゆく。

出石城は、山名・小出・仙石氏と城主も移り変わり、本丸跡に復元された隅櫓は、歴史を愛惜するに充分な美を感ぜさせる。幾段上の城へ山麓平地をとり入れた城の最上段だったという稲荷神社までは三十七の朱の鳥居、百五十七の石段が続く。参加者は、昔

健脚でこの参道を上りつめ、眼下に出石町を一望しながら昼食。後、午後の見学コースに移る。

家老仙石左京の屋敷は、現在は資料館となり、その間取りや大名行列の要具、人形など多くの展示物が興味深く参観者も大勢であった。



在時の舟着場だった所に「おりゅう灯笼」と呼ばれる高灯笼があり、なぜか妖気めいて見えたのは出石伝説のロマンの故だろうか。

足軽長屋は見性寺（敵を監視する物見台と寺院を兼備）を正面に歩いてゆく右側に藁ぶき屋根、千本格子の作りをみせて哀しいまでひっそり危く見落してしまいたい。

但馬第一の大社出石神社は、巨木の大鳥居、花一めんのだれ銀木扉の大樹、池庭など、それに堂々たる社殿、神の権威を誇るかのよう。に光る千本、それらを抱く静寂の境内に、代から堂々とこの神社を守り続けた来歴人達の宗教感情を思う。懇切な小谷氏の史蹟めぐりの資料冊誌と説明、公民館長さん達の誘導に感謝しつつ帰途につく。時代とともにも人々も歳月も流れて行くのには出石には落ち着いた。城下町としての矜持がしみじみと感じられた。遠い歴史が残した生の哀愍が今日訪ねた史蹟の随所に息づいていたからである。九月二十五日、初秋の爽やかな一日であった。

国連婦人十年最終年記念大会
京都女性フォーラム55に参加して

酒本 ゆくの

「平等・発展・平和」をテーマに女性の地位向上を目指し活動して参りました国連婦人十年の最終年を記念して、記念大会が京都国際会館で開催されました。十月二十四日早朝由良駅に集合した二十一人の参加者は、宮津線存続の願いをふまえた臨時列車で京都に向いました。ウイークデーにもかかわらず京都各地方から二四〇〇名余りの人で会館は埋まりました。林田知事の開会のあいさつに続き、瀬戸内寂聴様の「愛について」のすばらしい講演を聴き、国連婦人十年の成果と歩みを四人の方が発表されました。

フォーラムについては、コーディネーターに婦人問題企画推進会議委員西清子、パネラーにNHK京都放送局長佐藤敦、評論家富士谷あつ子、エッセイスト藤本統紀子先生方によるパネルディスカッション、さすが堂々たる方々の発言に圧倒されました。女性としての優しさ、女性らしさの中に、女性だからと云う甘えをなくし、社会参加の場を広げ、地位の向上をめざしてゆく事が女性に与えられたこれからの課題だと思いました。丹後ブロッコより丹後ちり郷土芸能では、丹後ブロッコより丹後ちり

めん小唄が披露され、その代表の中に山田マサ子、大森婦美子、藤井陽子、坂下文子、岡本美佐子さん達が国際会館の晴れの舞台で立派な踊りを披露されました。井上三千代師の京舞を最後に盛りだくさんの行事が無事終了致しました。列車内も五人、六人掛けて窮屈でしたが、和気藹々の中で楽しく由良に帰って参りました。今日の社会をより良く生きるために、自身の教養を高め、人生にうるおいのある暮らしが出来るように、生涯を通じて学習の場として、婦人会の行事には皆さん方と共に務めて参加してゆきたいものです。

歳末期にあたって

由良駐在所 出口 雅裕

一、無事故の年末
年末は何かと気ぜわしくなるものです。だからといって、車を運転するときでも、そのような気持になるといことは非常に危険なことです。無理なスピード、無理な追い越し、見とおしの悪い交差点での一時停止を怠り、左右をよく見えず突っ込んでゆく、どれも死亡事故につながるような無謀運転

です。

ゆっくり、心に余裕をもって冷静な運転姿勢に心が掛けて下さい。

☆ 危ないミニバイク。

ミニバイクの奥さん、お嬢さんご存知ですか。交通事故の半分以上がミニバイクの事故であり、かつ死亡率が高いという事実。そこで、次のことを守って運転すればより安全です。

- ヘルメットは、必ずかぶる。
（来年七月五日からは、原付も法律で義務づけられます。）
- 車の間を縫って走らない。
- 交差点では、左右をよく見て。
- 法定速度（時速三〇Km）を守る。

☆ 乗るなら飲むな、飲むなら乗るな

年末は忘年会などで、酒を飲む機会が増えてきます。そして相変らず後を断たないのが飲酒運転による交通事故です。

- 飲酒が及ぼす影響
○ 気がつかぬうちに、自制心や判断力が鈍る。
- 飲酒運転時の機能障害
○ 視野が狭くなり、視力が落ちる。
- 運動神経の機能が低下する。

○ 集中力が鈍り、平衡感覚が低下。
「自分は酒に強い。」一合ぐらいなら運転しても平気だ。」というのは大きな誤りです。ひとたび事故を起こすと、「死亡事故につながりやすい飲酒運転。酒の強い弱いにかかわらず、危険である」ということを肝に銘じて「乗るなら飲むな、飲んだら乗るな」を実践しましょう。

☆ シートベルトの効用

- 交通事故のとき、致命傷になりやすい頭や胸の損傷から守ってくれる。
- 時速二〇Kmの衝撃でさえ、体重の約六倍以上の力が加わる。
従って、シートベルトをしらない場合、ドライバの腕や足だけでは耐えられず、ハンドルやフロントガラスにぶつかってしまいます。
- 乗車中に死亡した人たちが、もしシートベルトをしていたら、一〇人のうち五人以上は助かったであろうといわれています。
- （実際、石浦の国道であった正面衝突事故でも、シートベルトをしていなかった人が助かり、していなかった人が死亡しています。）

二年末はご用心

歳末期には、ドロボーも必死になってい

ます。家中に侵入するドロボーの時間帯は、午前二時から四時の間に集中しています。そしてカギのかかったくない窓や勝手口から侵入するケースがほとんどです。

おやすみになる前は、小窓にも確実にカギをかけ、家族全員で確認して下さい。

「今」今を大切に

老友会長 中西文貴

天地創造の初に生れましし神聖、先ず時間と空間の神を、次いで火と水の精霊を生み給う。

この四柱は、所謂スワスチカの働として、宇宙構成の根本原理となり、大自然運営の、悠久且永遠に、不動不変の働きを続けているのである。

三次元の世界に生きる森羅万象は、この空間の中に生存し、この時間の内に躍動し、火と水の力により、生成化育されている。

この現界に生まれられた瞬間に、空間を占有すること許される。私という個体が消滅しない限り、如何なる権力にも金力にも奪い取ら

れることが無い。

私は、生まれた時から、この時間の中に生き続けるのである。幼年・少年・青年・成年・老年・老年と、精神的に肉体的に変化はあったが、その根底に流れているものは、ただ時間の経過に過ぎないのである。

生者必滅と叙尊が説いている如く、形ある物は必ずこわれ、生ある者は必ず滅す。三次元世界に出現を許されたものは、人も動物も鳥類も魚類も爬虫類も昆虫もアミバーに至るまで、この時間の支配を免れぬことは出来な

い。いつかは老い、滅するのである。それは、生をうけた時に既に定められた大自然の掟である。無為に送る日々のおそろしさをも更めて見直さなければならぬ。私達の生命は、秒針の一刻一刻に切りとられていくのである。早く走ることも泳ぐことも飛ぶことも、それは瞬間の時間の表現である。短いとか長いとか言う一生も亦時間の長さにはすぎない。光陰は矢の如しとか、私達は一瞬も止

るべきか充実した生き方は何かと、常に究明して生きていく今日を見出し度いものである。無為に送る一生、他人や世の為に過すのみ、一生である。

私は、再び返らない時間を、徒に過して来たことの余りにも多かつたことに慄然とする。今という時、秒針が刻む今。今といっただ今は

怖いのは

消したつもりと消えたはず

宮津市消防団由良分団

◎ たばこの投げ捨て

寝たばこはやめましょう

◎ 幼児、老人を残しての外出は

できるだけ避けましょう

◎ ガスの元栓は使った後は

必ず閉める習慣をつけましょう

◎ 火を使うときは、その場を

離れないようにしましょう

◎ 子供に火遊びを

ぜったいにさせないように

◎ あなたの家庭の防火は万全ですか？

いざという時に備えて

消火器、水バケツを

用意しておきましょう

乗車の輪

広げて守ろう 宮津線

既に過去と成っている。今は、再びかえらな
い今である。未来につながる尊い今を、私自
身の為に人の為に力強く踏みしめて行きたい。
これは、少年であれ成人であれ老人であれ、
得難い人生を生きぬく「道」である。
人間は相互に助け合って生きていく動物で
ある。自分の過去を振りかえるとき、無数の
先輩・知人・友人・後輩に導かれ救えられ助
けられたことを思い出す。こうして自分の今
日があるのだと気付く時、感謝の心は報恩の
念に転ずる。犬でも三日の恩を忘れない。一
宿一飯の恩義は男の一生を左右する。小さな
うらみ、にくしみ、そねみは、人の心につ業に
過ぎない。今日ある自分を育ててくれたさ
った方々、大自然、ふる里に報いるのは、今
の生き方一つである。私を喜ばせてくれたさ
た人に、喜びを。私を救ってくれた方に、救
済しみを。私を救ってくださった方に、救
済しみを。私を苦しめた人でも、その苦しみを
味あわせてはならない。この願いを果すのは
今だ。今の一刻一刻が、如何に大切なるもの
であるかを認識して、生きるよろこびをかみし
めて、今の一刻を大切に暮らしていき度いも
のである。